

小学部重複障がい学級 音楽科 学習指導案

日 時：令和7年11月28日（金）
 3校時（10：30～11：15）
 場 所：第2自立活動室
 授業者：T1 土屋侑佳 T2 逸見静佳
 T3 佐竹真理子 T4 松田政子
 T5 柴田静香 T6 田川玲子
 T7 渋谷絵里 T8 田中純子

1 題材名 「楽器を鳴らそう」

2 目標

- 楽器の音やリズムに気付いたり、楽器を鳴らしたりすることができる。（知識及び技能）
- 楽器の音やリズムを聴いて、自分なりに表現を楽しんだり、音楽表現を工夫したりすることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 楽器やリズムに関心を向けたり、楽器の音やリズムの楽しさを感じて、自分なりに表現を楽しもうとしたりする。（学びに向かう力、人間性等）

特別支援学校学習指導要領解説 各教科編（小学部・中学部）
 目標・内容の一覧〔音楽〕 各教科 P. 588、590、592 別紙添付

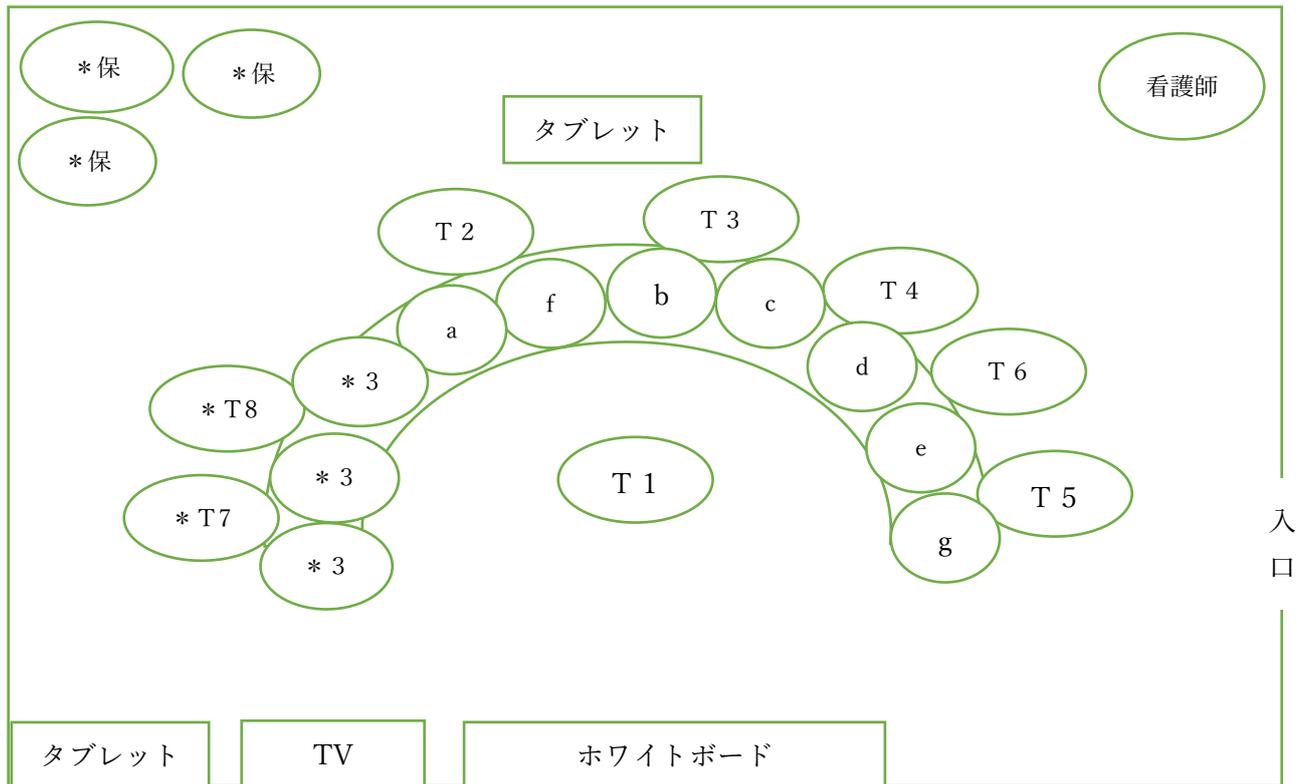
3 個別の目標

a	<ul style="list-style-type: none"> ① 教師と一緒に鳴らす楽器の音に気付くことができる。 ② 楽器の音やリズムを聴き、視線を向けたり、感じたことを声で表したりすることができる。 ③ 友達や教師が鳴らす楽器の音やリズムを繰り返し聴き、声を出したり、楽器に手を伸ばそうとしたりする。
b	<ul style="list-style-type: none"> ① 楽器の音やリズムの違いに気付くとともに、楽器を鳴らすことができる。 ② 楽器の音やリズムを聴いて、楽器の鳴らし方を工夫することができる。 ③ 音の違いや、友達の表現の良いところを見付け、一緒に楽しもうとする。
c	<ul style="list-style-type: none"> ① 楽器やリズムに関心を向けて聴いたり、自分で楽器の音を出したりすることができる。 ② 楽器の音やリズムを感じて、楽器を鳴らしたり身体を動かしたりして表現することができる。 ③ 教師や友達が鳴らす楽器の音やリズムに親しみ、一緒に取り組もうとする。
d	<ul style="list-style-type: none"> ① 楽器の音やリズムに気付いたり、教師と一緒に楽器の音を出したりすることができる。 ② 楽器の音やリズムを感じて、身体を動かしたり音を出したりすることができる。 ③ 楽器や音に関心を向け、友達や教師と一緒に活動を楽しもうとする。
e	<ul style="list-style-type: none"> ① 楽器の音やリズムを感じて、身体を動かしたり、楽器を鳴らしたりすることができる。 ② 始まりと終わりを意識しながら聴き、楽器を鳴らしたり身体を動かしたりして表現することができる。 ③ 楽器の音やリズムの楽しさを感じ、友達や教師と一緒に活動しようとする。
f	<ul style="list-style-type: none"> ① 簡単なリズムに合わせて、楽器を鳴らすことができる。 ② 範奏を参考にしながらリズムや音の強弱を工夫して、自分なりに楽器を鳴らすことができる。 ③ 音の違いや、友達の表現の良いところ見つけ、一緒に楽しもうとする。
g	<ul style="list-style-type: none"> ① リズムを意識して楽器を鳴らすことができる。 ② 楽器の音やリズムを聴いて、優しく音を出すなど音楽表現を工夫することができる。 ③ 楽器やリズムに関心を向けたり、教師や友達と一緒に活動に取り組もうとしたりする。

4 指導計画（本時5／6時間）

	実施日	学習内容	評価の観点		
			知	思	主
1	10月31日（金）	(1) はじめのあいさつ	○		
2	11月7日（金）	(2) タンバリンでおへんじ	○		
3	11月14日（金）	(3) タンバリンをならそう	○	○	○
4	11月21日（金）	(4) まねっこせんせい	○	○	○
5 本時	11月28日（金）	(5) ふりかえり		○	
6	12月5日（金）	(6) おわりのあいさつ		○	○

場の設定



- ※ *3 : 3組（訪問教育）の児童
- ※ *T7, T8 : 3組の児童を支援する教員
- ※ *保 : 3組の児童の保護者
- ※ 毎週金曜日が訪問学級の児童のスクーリング設定日となっており、登校した際には一緒に学習に取り組む。
- ※ 訪問教育の本時の指導案は、当日別紙配布。

5 本時について

(1) 全体の目標

○ 範奏やリズムを聴いて、自分なりに表現を楽しんだり、音楽表現を工夫したりすることができる。
(思考力、判断力、表現力等)

(2) 児童の個別の実態と目標

	児童の実態（自分の力）	個別の目標	評価の観点		
			知	思	主
a	<ul style="list-style-type: none"> 好きな音楽が聞こえてくると視線を向けることができる。 短い曲の歌を繰り返し聞くことで、楽しさを感じ、声をあげることがある。手に持つ楽器は、口に運んでしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に鳴らすタンバリンの音に気付いて、視線を向けたり声を出したりすることができる。 		○	
b	<ul style="list-style-type: none"> 歌や音楽を好み、音の変化や速さなどの違いを感じて楽しむことができる。 動画教材や教師の範奏に注目し、リズム打ちの手の動きをまねしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> タンバリンの音やリズムを聴き、音の強弱やリズムを考えて表現することができる。 		○	
c	<ul style="list-style-type: none"> 教師が近くでタンバリンをたたいて音を出してみせると、目を向けて聴く。 範奏の後にタンバリンを差し出すと、手を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> タンバリンを鳴らす教師や友達に目を向けて聴いたり、タンバリンを持ち好きなたたき方で鳴らしたりすることができる。 		○	
d	<ul style="list-style-type: none"> 動画教材に注目したり音のする方に視線を向けたりする。 歌や音楽を好み、楽しい気持ちで身体を揺らすことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> タンバリンの音を感じて体を動かしたり、教師と一緒に音を出したりすることができる。 		○	
e	<ul style="list-style-type: none"> 楽器を目の前に提示すると手を伸ばして取ろうとする。 範奏を示すとタンバリンをたたいて音を出そうとする。 教師の範奏が終わると手を振ったり拍手をしたりすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達や教師がタンバリンを鳴らす様子を見て、自分なりにリズムをとってタンバリンをたたくことができる。 		○	
f	<ul style="list-style-type: none"> 歌や踊りを好む。動画教材や教師の範奏などに注目し、動きやリズム打ちをまねすることができる。 リズムや速さの変化に気付いてそれを楽しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達の鳴らす音やリズムを聴き、自分が表現したい音やリズムを考え表現することができる。 		○	
g	<ul style="list-style-type: none"> 歌や音楽を聴くことを好む。動画教材や教師の範奏などに注目し、動きをまねしようとすることがある。 心理的に安定した状況であれば範奏のリズムを聴いて、音を出そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 範奏やリズムを聴いて、優しく音を出そうとしたり、選んだカードに応じて音を出そうとしたりする。 		○	

(3) 学習活動の展開

時間	学習活動	主な支援 (○) 留意点 (・) 評価の観点 (☆)
導入 10分	1 始めの挨拶をする。 2 タンバリンで返事をする。 (1) タンバリンに触れて音を出したり、同じリズムで鳴らして応えたりする。 (2) 友達の音を聴いたり、様子を見たりする。	○T1 「今日も『タンバリンをならそう』の勉強をしようね！」 ○T1 「今日一緒にお勉強するお友達は誰かな。タンバリンを使ってお返事してみよう。」 ・「○○さん」(♪♪♪)で呼び掛ける。 ・T1がタンバリンを持って全員順番に回る。 ・T2～T6は、児童が取り組む様子を見守ったり、手を添えて一緒に楽器に触れたりする。
展開 25分	3 学習内容を知る。 (1) 今日のめあてを教師と確認する。 4 タンバリンを鳴らす。 (1) 約束を確認する。 (2) 教師の範奏を見て、リズム打ちをする。 5 「まねっこせんせい」となり、タンバリンを鳴らす。 (1) カードを選ぶ。 (2) 前に出て、タンバリンを鳴らしたりリズム打ちをしたりする。 (3) 友達がタンバリンを鳴らす映像を見て、まねしてタンバリンを鳴らす。	○「タンバリンくん、今日のめあてを教えてください？」 タ『今日はみんな、まねっこせんせいをやってみようよ。みんなのリズムが聴きたいな。』 ○「めあてカード」を配付する。T2～T6は主に支援にあたる児童と学習の目標を確認する。 ○「だいに」「にこにこ」の2つのキーワードで、楽器を扱い方と学習の取り組み方について確認する。 ○タンバリンを配付する。 ○T1が絵カードを提示しながら、いろいろなリズムがあることを確認する。 ・T2～T6は、T1と同じリズムで児童と一緒にタンバリンを鳴らしたり、児童が自分でタンバリンを鳴らす様子を見守ったりする。 ・必要に応じて、リズムカードも活用する。 タ『まねっこせんせい、やってみよう。』 ○T1は児童に「まねっこせんせい」になって前に出て、タンバリンを鳴らすことを伝える。 ・「まねっこせんせい」になる児童が、「絵カード」「リズムカード」を自由に選択できるようにする。 ・前に出た児童がリズム打ちをする様子をタブレットで録画する。 ・教員は児童と一緒にタンバリンを鳴らしたり、児童が自分で鳴らす様子を見守ったりする。 ○「まねっこをしてみよう。」 ・録画した映像をテレビで流し、児童が模倣できるように支援する。

		<p>a○タンバリンを鳴らす活動に気持ちを向けることができるように、教師が手を取りながらタンバリンをたたいて活動に誘い掛ける。</p> <p>a☆教師と一緒に鳴らすタンバリンの音に気付いて、目の前のタンバリンに視線を向けたり、声を出したりすることができたか。</p> <p>b○安心して活動できるよう表情や様子から気持ちを推察したり言葉掛けをしたりする。</p> <p>b☆タンバリンの音やリズムを聴き、音の強弱やリズムを考えて表現することができたか。</p> <p>c○身振りとともに言葉掛けをする、イラストを提示するなどして誘い、児童なりの表現を称賛して、活動への関心と意欲がもてるようにする。</p> <p>c☆前に出てタンバリンを鳴らす教師や友達を見て聴くことができたか。</p> <p>c☆自分でタンバリンを持ち、好きなたたき方で鳴らすことができたか。</p> <p>d○活動に気持ちを向けられるように言葉掛けをしながら手に触れて誘い掛ける。</p> <p>d☆タンバリンの音を感じて体を動かしたり、教師と一緒に音を出したりすることができたか。</p> <p>e○友達や教師を見るように促す言葉掛けをしながら、手を取って一緒にタンバリンをたたくようにする。</p> <p>e☆友達や教師がタンバリンを鳴らす様子を見て、自分なりにリズムをとってタンバリンをたたくことができたか。</p> <p>f○友達や教師が鳴らすリズムの良さや特徴を伝え、自分で考えたリズムを発表できるように誘い掛ける。</p> <p>f☆強弱や速さなどをアレンジして表現することができたか。</p> <p>g○「優しく」「大事に」などの言葉を、手話を交えながら伝える。興奮している様子が見られる場合は、うれしい、楽しい、緊張などの心理状況が想定されるためそれらについて言葉でフィードバックしながら手を握ったり胸元に手を当てたりすることで興奮を落ち着かせるよう促す。</p> <p>g☆タンバリンを優しく扱いながら、選んだカードに応じて既定のリズムを意識したり、自分なりのリズムを考えたりして鳴らすことができたか。</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>6 学習を振り返る。 (1) 近くの教員とめあてカードを見ながら、学習を振り返る。</p> <p>7 終わりの挨拶をする。</p>	<p>○T1は全体に言葉掛けをし、T2～T6が児童の実態に合わせて、振り返りをする。</p> <p>・T2～T6は、主に支援にあたる児童と、「めあてカード」を活用しながら振り返りをする。</p> <p>○学習が終わりに近づいていることがわかるように、『星に願いを』のオルゴール ver をBGMに流す。</p>